

図画工作科学習指導案

日 時 平成 29 年 10 月 27 日(金) 公開授業 I
児 童 5 年生
授業者
授業場

1 題材名 「詩やおはなしから広がる世界」

2 題材の目標

詩やおはなしから発想を広げ、「あったらいいな。こんな夜」をテーマとして絵に表す活動を通して、自分の「表したいイメージ」と表し方の関係に気付き、造形的な見方や考え方を広げながら、自分の表したい絵のイメージに合う表し方を考え、工夫して表現することができる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作 第 5 学年及び第 6 学年の目標(2)「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」に基づき、内容「A表現」(2)「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。」及び[共通事項](1)を受け、自己を見つめ表したい絵のイメージをより明確にしながらか確立していく事、そして造形的な視野を広げながら、必要な表し方を選択決定し、自分の表したい思いに作品を近づけていくことを主なねらいとした。

本題材は、元々ある物語の一場面を絵で表すことをテーマとするのではなく、詩やおはなしを参考に想像を広げ、「あったらいいな。こんな夜」を共通のテーマとして絵に表すこととした。児童にとって普段は寝ている時間の「夜」をテーマとすることで、より豊かに自由に想像を広げることができると考えた。また、共通のテーマを設けることで、他者の持つイメージや表し方、工夫を自己と比較しやすくなり、造形的な見方や考え方を広げる上で、より活発な鑑賞や対話が展開されたと考えた。また、ある世界のイメージを広げ絵に表すためには、自分の表したい世界のイメージや自分の思いに寄り添いながら想像力を豊かに働かせ、自分の心に描いた世界にふさわしい表し方を考え工夫していくことが重要である。そのためにも、本題材では創造活動の根幹を流れる自己の表したい世界や自分の表したい思いを明らかにするための工夫や、思い描いた世界にふさわしい表し方を考えるために視点を持たせることが必要であると考えた。

(2) 目指す児童像

本校 5 学年を対象とした図画工作科の学習についてのアンケート調査(年度初め実施)では、「思い描いていたことが実現せず終わってしまったことはある」という項目について、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している児童が全体の 67%であった。このことから、本校 5 学年の課題として、思い描いたイメージに作品がたどり着いていないと感じている児童が多いという点をあげることができる。課題の背景として、表したいものはあるものの、「制作過程での教師の関わりや手立て、指導方法が不十分だったことから、児童に自分らしく作ったり表したりするための技能が十分に身についておらず、表したいものを表すことができない」「表現の工夫や表し方、造形的なよさや美しさを感じ取る視野を広げるための、教師の場の設定や手立てが不十分だったため、児童が表現の選択肢を持てなかった」「創作の意欲を最後まで児童に維持させるための教師の関わりや、手立てが不十分だった」ことなどが考えられる。

また「友だちの作品や芸術作品を鑑賞するとき、作った人が表したいことをどのように工夫して表現しているか想像しながら鑑賞している」、「作ったり描いたりしている時に、友だちからアドバイスをもらって、作品が良くなったことがある」という両項目に対し全体の約 20%が「あてはまらない」「ややあてはまらない」と回答している。こ

これらのことから、本 5 学年のもうひとつの課題としてあげられるのが「これまでの鑑賞学習や対話が自己の造形的な視野を拡げ、自己の制作活動に有効に働くものと感じていない児童もいる」ということである。課題の背景としては「教師の場の設定や手立てが不十分だったため、鑑賞や他者との対話で何を視点にすればよいか理解できていなかった」「鑑賞や他者との対話が自分の視野を拡げ、作品をつくる上で役立ったということを実感させる場を教師が設定していなかった」ことなどが考えられる。

小学校高学年の時期は、自分という存在を強く意識し、物事に対する自分なりの認識を持つ傾向にある。このことから、本題材では、自分が表したい絵のイメージを内から外に表出させるため、自分の思いを確かめ自己としっかりと向き合う姿、そして、造形的な視点を持った上で他者の工夫や考え方に触れることによって造形的な視野を拡げさせたい。また、それらの活動から客観的に自己の表現を見直し、最後まで主体的に自分の表したい世界に作品を近づけていこうとする児童の姿を期待している。また、鑑賞や対話の活動が、創造活動に対する考え方をより豊かにし、自己の造形的な見方や考え方を高めることにつながることも感じさせたい。

(3) 指導観

本題材は、詩やおはなしを参考に「あったらいいな。こんな夜」をテーマに、造形的な見方や考え方を拡げながら、自分の表したい世界に最適な表現を選択・決定しながら絵として表す。造形的な見方や考え方を拡げる手立てとして、「表したいイメージ」と表し方の関係性に気付かせ、視点を持って鑑賞したり対話したりする場を設けることで児童の見方をさらに広げ、「表したいイメージ」と表し方を結び付けて考え表現できるようにしたい。ここであげる「表し方」とは技術や技法だけではなく、イメージを表現するための様々な要素のことであり、「表したいイメージ」と表し方の関係性とは、表し方が自己や他者のイメージをどのように支えているのか、どのような働きや効果をもたらしているのかという関係性のことである。より豊かに表現していくために、自分のイメージをもとに、「みる」「つくる」を意識させ、試行錯誤しながら自己の表現を高めていく活動を積み重ねていくことは、創造活動や表現することに自分なりの意味や価値を見出すことにつながっていくと考えられる。これらは、本研究主題の「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒」の育成の一端を担うものと考えられる。

以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

図画工作科における「見方・考え方」は、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくり出すことである。

本題材において、手立てが有効に働くためには、児童の制作活動を支える大きな柱である児童の表したい世界のイメージや自己の思いを明確にさせていくことが重要である。自己の持つイメージを明確化するために、言語によってイメージを整理したり、表した作品を客観的に観察したり分析しながら作品の改善点や課題を考える場面を設定した(A)。

自分の作品の課題を明確にした上で、「構図」と「配色」の2つの造形的な視点を基に作例などを分析・比較することによって、「表したいイメージ」と表し方の関係性に気付かせ、さらにそこで得た視点を共有し、鑑賞や対話を通して、自他の見方や考え方、感じ方の違いを理解し、他者の多様な発想や工夫を知ることにより、「表したいイメージ」と表し方の関係性について考えを深め、造形的な視野を拡げていくことを手立て1とした。

4 評価規準

| 関心・意欲・態度 | 発想・構想 | 創造的な技能 | 鑑賞 |
|--------------------------------------|--------------------------|---|---------------------------------|
| ア「夜」をテーマに色や表し方を工夫して表そうとしている。 | ア「夜」をテーマに豊かに発想している。 | ア 自分の「表したいイメージ」が表れるように、画面の構成や配色などを工夫している。 | ア 「表したいイメージ」と表し方の関係性を視点に鑑賞している。 |
| イ「あったらいいな。こんな夜」をテーマに、工夫して絵に表そうとしている。 | イ「表したいイメージ」を表すために構想している。 | | イ 鑑賞や対話の活動から表現の工夫や良さを感じ取っている。 |

5 学びの過程デザイン

| 下支えする主体的な学び | 学 習 活 動 | 手 立 て |
|---|--|---|
| <p>「表したいイメージ」を基に、表し方を調整しながら「表したいイメージ」に作品を近づけていく。</p> <p>他者と「夜の色」のイメージ等を交流し、表し方を工夫したり試したりしながら「ドローイングカード」を作成し、その中から自分のイメージに近いものや気に入った「夜の色」を選択する。A</p> <p>自分の選んだ「夜の色」からイメージをふくらませ、物語を想像し、アイデアスケッチを描く。また、自分の表したい世界のイメージや思いと現時点でのアイデアスケッチを見比べ、次の鑑賞活動において、自分が困っている点やアドバイスがほしい点、課題などを考える。A</p> <p>「表したいイメージ」と表し方(画面の構成)との関係性に気付き、視点を持って他者との対話や作品鑑賞をし、そこで広げた視野から再び作品を見つめ直し、作品を表したい絵のイメージにより近付けるようにしていく。B</p> <p>他者と交流しながら制作を進め、表したい絵のイメージに作品を近づけていく。完成後、鑑賞活動を行い互いの作品のよさを感じとる。「表したいイメージ」と表し方の関係性や、鑑賞や対話の活動と造形的な視野の広がりについて交流し、これまで学んだことを振り返り、ワークシートなどを使って整理していく。B</p> | <p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流の場から夜の色のイメージを広げる。 ○「夜」をテーマに「ドローイングカード」を作成する。【関ア・発ア】 | <p>【他者や自己との対話】</p> <p>「夜」のイメージを交流した後、「夜の色」のイメージをさらに広げられるような資料や作品の提示を行う。また、表し方を工夫したり試したりしながら「ドローイングカード」を作成し、作ったカードの中からそれを選んだ理由なども考えさせながら、自分の「夜の色」を選択していく。I</p> |
| | <p>2・3 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵のない詩やおはなしから想像をふくらませ、自分の選んだ「夜の色」をもとに、「あったらいいな。こんな夜」の物語を考える。 ○イメージを文字にししたり、整理したりしながらアイデアスケッチを描く。 ○アイデアスケッチと自分のイメージを照らし合わせ、課題を考える。【発イ・技ア】 | <p>【自己との対話】</p> <p>絵のない詩やおはなしから想像をふくらませ、「表したいイメージ」を言語化したりスケッチしたりしながらイメージを可視化させ整理しながら、アイデアスケッチを描いていく。また、次の鑑賞活動(鑑賞とアドバイスなどの交流)の見通しを持つとともに、自分の表したい世界のイメージや思いとアイデアスケッチを照らし合わせ、「本当はこうだった」「ここが表せなくて困っている」「うまくいかなかった」などの課題などに気付く。I</p> |
| | <p>4 時間目 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習の事項の確認や作品の比較・分析などから、「表したいイメージ」と表し方の関係性に気付き、その視点を生かして、相互の作品を鑑賞し、対話やアドバイス等を行う。 ○他者の考えや表し方の工夫を知り、造形的な視野等を広げ、自己の制作活動に生かしていく【鑑ア・技ア】 | <p>【自己や他者との対話】</p> <p>既習の事項(アングル)の確認や、作例の比較・分析から表したいイメージや思いを表すための工夫(配置・物の大小・線の強弱等)を考え、「表したいイメージ」と表し方の関係性に気付く。また、その関係性の視点を生かして、友だちの作品を鑑賞しアドバイスし合ったりすることで、他者の考えや表現の工夫を感じ、造形的な視野などを広げた上で、再び作品を見つめ直し、作品をより表したいイメージに近づけていく。I</p> |
| | <p>5・6 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞や対話から自分の作品を見直し、作品を表したい絵のイメージに近付ける。 ○互いの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫、よさを感じ取る。 ○これまでの学習を振り返る。【技ア・鑑イ】 | <p>【作品や自己・他者との対話】</p> <p>他者と自由に交流しながら制作を進め、自分の表したい絵のイメージに作品を近づけていく。また、これまでの鑑賞や対話の活動から感じたことや学んだことを交流し合い、それらの活動によって自分の造形的な視野を広げることができるということを全体で確認し、ワークシートなどを使って学んだことを整理し学習のまとめを行う。I</p> |

6 本時について(4/6 時間目)

(1) 本時の目標

自分の表したい世界のイメージと表し方(画面の構成)の関係性に気付き、自分なりの視点を持つことを通して、鑑賞や対話などから自他のイメージと画面の構成の工夫、相互の造形的な「見方・考え方」などを感じ取り、自分のイメージを表すための工夫や、造形的なよさや美しさを広く感じ取る視野などを広げることができる。

(2) 本時における研究の視点

前時まで、「夜の色」をテーマに作成した「ドローイングカード」(絵の具と様々な材料、道具を組み合わせ、表し方を試しながら作成したカード、他の題材においても資料として活用している)から自分の「夜の色」を選択し、「あったらいいな。こんな夜」をテーマに、絵のない詩やおはなしなどから「夜」の想像を広げ、アイデアスケッチを作成した。また、自分の「表したいイメージ」と表したもの(アイデアスケッチ)を照らし合わせ、課題や改善点(うまく自分のイメージや考えを表すことができているか等)について考えた。

本時では、それらの課題解決のため、手立てIとして、全体の場合やグループ等で、表したい世界のイメージや自己の思いを表すための「画面の構成」の工夫を考え、比較したり分析したりして「表したいイメージ」と表し方の関係

に気付かせる。さらに、画面の構成が作者の「表したいイメージ」をどのように支え、どのような働きや効果をもたらしているか、などという視点を持った上で、自分の作品の課題と、本時で得た視点を基に「見方・考え方」を働かせて鑑賞や対話を行う。「表したいイメージ」と画面の構成の関係性を視点に鑑賞することにより、作者のイメージや表し方の工夫を広く知ることができる。また相互にアドバイスし合うことから、表したい世界のイメージに作品を近づけていくことに適した表し方を考え、自分のイメージを表すための工夫や造形的な視野などを広げることが出来ると考えた。

また、授業後半では、個の内面化(B)として、活動を通して自分の作品を見つめ直し、自己の表現を再考する場面を設定した。児童の変容については目に見える表現の変化だけではなく、児童が自己の表現に納得し確信をもつ内面の変化なども考えられる。これらも含め、児童の変容を広く見取りたいと考える。

(3) 本時の展開(○発問, △補助発問, □指示・説明)

| 学習活動 | 主な働きかけ・手立て | 【評価】 個に応じた指導(▲) |
|--|--|--|
| <p>(前時の動き)作品の課題や改善点を考えた。 ・どうしたら夜空を見て主人公が感動している様子を表せるかな。 ・迫力が出る表し方はないかな。</p> | <p>(前時:自分の作品の課題や改善点を考えさせた。また、鑑賞のポイントやアドバイスのポイントなども学んでいる)</p> | |
| <p>1 自分の課題を確認させ、「表したいイメージ」と画面の構成の関係性に気付く。 ・描かれている内容は同じでも、主人公の目線に近いアングルに変えると主人公の気持ちが変わってくるような作品のイメージに変わるんだね。 ・大きさや線の強さが変わると迫力が出たり、寂しい雰囲気になったり、伝わるイメージが変わるんだね。 ・課題を解決するためにここで気付いたことをどう使おうか。</p> <p>2 気付いた関係性をもとに、作品の相互鑑賞を行う。アドバイスは付箋に書き作品に貼る。 ・同じ「夜」だけどんな想像もあるのか。おもしろいな。 ・主人公が夜空を見上げたアングルに変えると、より夜空に感動している様子が表せるかもしれないな。 ・この作品は建物を大きくしたり、線を強くしたりしたら、迫力が出て、この人の表したいものに近づくんじゃないかな。 ・この作品の画面の構成は自分の作品の参考になりそうだな。 ・良いアイデアが浮かんだぞ。このアングルに変えてみよう。</p> <p>3 鑑賞後、作品を見つめ直し、変更点があれば記入。感じたことや思ったことを記述する。 ・友だちのアドバイスを参考に主人公が夜空を見上げるアングルを変えてみよう。 ・友だちのアドバイスを参考に、ここの建物の大きさを変えたら自分の表したい迫力のある絵になりそうだな。 ・色んな工夫があったな。自分にはない発想だった。 ・いいアドバイスだな。こんなアドバイスの仕方が良いな。 ・見ていたら良いアイデアが思いついたぞ。試してみよう。 ・いろいろアドバイスをもらったけど、今回は自分の考えたアングルや登場人物の大きさやバランスが一番自分のイメージに近いみたいだ。変更はしないでこのままで良いな。 ・表し方(アングルや大きさや線の強弱)とイメージの関係って大きいな。他の絵を描くときにも使えそうだな。</p> <p>4 構図を変えたり、試したりしてみる。下絵が決まったら、本番の紙に下描きをする。 ・アドバイスを試してみたら、よりイメージに近くなった。困っていたところが解決できたぞ。 ・友達のアドバイスを試したけど、今回は自分が考えた表し方の方があってるみたいだ。 ・アドバイスや鑑賞ってよいものだな。</p> | <p>□既習の「アングル」について考えることのできる作品を示し、表したい世界のイメージや思いを表すための「画面の構成」の工夫(配置・物の大小・線の強弱等)を考え、「表したいイメージ」と画面の構成の関係について気付いた事を交流していく。 ○「表したいイメージと表し方には様々な関係があることがわかりました。作品をイメージに近づけるためのヒントになりそうですね」 □「今感じたことや学んだことを頭に置いて、友だちの作品を鑑賞し、どうしたら友だちの作品が表したいイメージに近づくか考え、付箋にアドバイスを書きましょう。」 手立て I</p> <p>○「鑑賞や友だちからもらった付箋(アドバイス)から参考になりそうなアドバイスはありましたか。表したいイメージと表し方とはどんな関係があったか新たに気付いたことがあれば発表してください)(良いアドバイスや気付いたことがあれば作品を見ながら交流し板書してまとめる)</p> <p>□「作品を見つめ直し、変更する部分があればトレーシングペーパーに青色鉛筆で記入してください。変更がない人は、その理由をワークシートに記入してください。」 B</p> <p>□変更点を描いたら、本番の紙に下描きをしましょう。</p> | <p>【鑑ア～発言】 ▲机間指導の中で「自分の表したい世界はどんなイメージか」「表せているか」と問い、想起させる。</p> <p>【鑑ア～技ア～ 発言・ワークシート・付箋】 ▲アドバイスは付箋を貼るだけでなく本人がいれば対話するように促す。</p> <p>▲作品に変更が無くとも、「参考になりそうだな」、「良いな」と思った表現や工夫についてシートに記入することを指示する。また、様々なアドバイスを鵜呑みにするのではなく、自分の「表したい世界のイメージや思い」に合っているかどうか、必要かどうか考えることが大切であることを伝える。</p> |
| <p>5 学習の振り返りと、次時への課題を記述する。</p> | <p>□学習の振り返りと次回の課題をワークシートに記入してください。次の時間は色や塗り方を決めていきます。</p> | <p>【鑑ア～ワークシート・記述】</p> |